

バスケットボール競技における有効攻撃に関する一考察

—ペイントエリアでのシュートに着目して—

コーチング科学研究領域

5013A012-0 一色 貴史

研究指導教員：倉石 平 教授

I. 緒言

バスケットボールの試合における攻撃側の目的は、「シュートを成功させて得点」することであり、さらにいえば確率の高いシュートを多く成功させて得点することが勝利へと繋がる要因の一つである。

高い確率で得点が望まれるエリアとして、コート上のゴールから一番近いペイントエリアが挙げられ、ペイントエリアにボールを集め、プレイすることは相手にとって非常に脅威となる。

ペイントエリアでのプレイはこれまで主にインサイドプレイの研究が多くされており、インサイドプレイが勝敗を決する一つの要因として言及されている。

しかし、ペイントエリアにおける得点の方法はインサイドプレイだけでなくさまざまな方法があると考え、その得点に至る攻撃内容を研究することで、ペイントエリアでのさらなる得点の増加が期待できると考えた。

そこで本研究では、女子アジア選手権と女子世界選手権を対象に、ペイントエリアでの有効な攻撃内容を、①多く得点するため、②効率良く得点するための2つの観点に着目し、明らかにすることを

目的とした。

II. 方法

対象ゲームは、第24、25回女子アジア選手権の上位4チーム(日本, 韓国, 中国, チャイニーズタイペイ)間の試合、計20試合と第17回女子世界選手権全40試合をSport Code Proを用いてコーディングを行った。

全シュートを「ペイントエリア」、「2Pアウトサイド」、「3P」と3つのエリアに分類し、攻撃形態は「FB/SB」と「SET」に分類した。また、ペイントエリアで放たれたシュートにおいて、①Lay up, ②Drive, ③Cut, ④Screen, ⑤Post, ⑥ORSに分類し、シュート内容の集計を行った。同時にフリースロー(FT)の獲得数も集計し、有効な攻撃内容を検討した。

統計処理は、 χ^2 検定を用い有意差が見られた項目には残差分析を行った。

III. 結果・考察

ペイントエリアでのシュートはアジア選手権、世界選手権ともに試投数、成功数の割合が多く、成功率が最も高いこと

からオフェンスは高い確率でシュートを放ち成功することが期待できるペイントエリアの攻撃を優先したと考えられ、結果このエリアでのシュートが攻撃形態にかかわらず多くなった可能性が考えられる。

ペイントエリアの攻撃内容では、FB/SB の攻撃形態において、両大会ともに Lay up の試投数、成功数が最も多い値を示したことから、高い確率でシュートを成功することができる Lay up を第一優先としている可能性が考えられる。しかし、成否間では世界選手権においてのみ成功が有意に多かったことから、世界選手権においてのみ、効率良く得点することができたと考えられる。

SET の攻撃形態においては、両大会ともに Drive の試投数が最も多く、成功数に関しても多い値を示した。しかし、両大会とも成否間の残差分析では、失敗が有意に多かった。よって、Drive は、多く得点はしているものの、効率の良さの観点からは有効であることは考えにくい。

また Post においても、試投数、成功数が多い結果であったことから、多く得点するには欠かせない攻撃内容であることが考えられる。しかし、成否間で有意差が認められなかったことから、失敗する可能性も同等であると考えられる。

Cut は、試投数が多くなかったが、成功が有意に多い結果を示した。よって、効率良く得点可能な攻撃内容であることが考えられる。Cut は、タイミングや動

きの合わせが重要と言われているため、このような結果となったことが考えられる。

ORS は、試投数は多くなかったが、成功が有意に多い結果を示した。したがって、ORS は効率良く得点できると考えられる。しかし、リバウンド争いにおいては、ディフェンスの方が有利であるため、試投数が多くなかったことが考えられる。

FT に関しては、攻撃内容の違いによって FT 獲得に直接影響しているとは言い難いと考えられる。

IV. 結論

シュート全体において、ペイントエリアでの得点が試合の核である可能性が示唆された。

ペイントエリアの攻撃内容では、①多く得点するという観点では、アジア選手権、世界選手権の両大会において、FB/SB では Lay up、また SET では、Drive と Post が有効である可能性が示唆された。

②効率の良さという観点では、FB/SB では、世界選手権のみ Lay up が有効であることが示唆された。SET においては、両大会とも Cut と ORS が有効であることが示唆された。

FT の獲得は、攻撃内容の違いによって直接影響しているとは言い難く、攻撃内容にかかわらず FT を獲得していると思われる。